

## 事後評価シート

調査研究課題名	高齢者の街なか居住への適応に配慮した都市・住宅整備に関する研究		
担当者	主任研究官 古本一司、 研究官 山本健司、松本将身	前主任研究官 日下部隆昭 前研究官 森山弘一	
当初目標と目標達成度	<p>近年多くの自治体で「街なか居住」が推進され、高齢者の街なかへの転居も増加が予測される。本研究では、高齢者の精神的健康に配慮した都市施設や住宅等の配置・構造のあり方を提案することを目的として調査・分析を行った。その結果、高齢者の精神的健康と住宅・住環境への満足度との関係を把握するとともに、高齢者の精神的健康を維持・向上するのに効果的な都市施設・住宅像を明らかにすることができた。従って、当初の目標を達成したと考える。</p>		
調査研究内容の妥当性	<p>本研究では、街なか（中心市街地）で生活する高齢者に、アンケート調査及びインタビュー調査を実施した。そして、転居後の居住年数が短い高齢者（転居群）と、転居後の居住年数が長いまたは転居していない高齢者（対照群）の精神的健康や住宅・住環境への満足度を比較・分析することで、転居が精神的健康に与える影響を明らかにし、高齢者の精神的健康に配慮した都市・住宅整備のあり方を検討することができた。</p>		
調査研究の仕組みの妥当性	<p>本研究では、研究精度の向上を期するため、老年社会学分野・都市住宅分野の4名の学識者（安藤孝敏氏（横浜国立大学教育人間科学部教授）・小泉秀樹氏（東京大学大学院工学系研究科准教授）・斎藤民氏（東京大学大学院医学系研究科助教）・橋弘志氏（実践女子大学生生活科学部准教授））から構成される研究会を設置し、研究会において、的確な意見・示唆を受けながら調査研究を進めることができた。</p>		
成果と活用（予定）	<p>研究成果を当研究所のホームページや学会等へ広く公表する。少子高齢化時代における住宅・住環境整備の質を高めるための検討材料として活用されることが期待される。</p>		
その他	<p>本研究の成果は、以下のとおり発表した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ PRI Review 第23号・第25号・第28号</li> <li>・ 日本建築学会計画系論文集 第628号（査読論文集）</li> <li>・ 日本建築学会大会学術講演会（2008年9月に講演発表を行う予定）</li> </ul>		